伊藤重蔵

号

伊藤梅宇

いとう・じゅうぞう

いとう・ばいう

福山藩儒者（福山伊藤家初代）

経　歴
生：天和3年（1683年）8月19日、京都東堀川生まれ
没：延享2年（1745年）10月28日、享年63歳、定福寺に葬る

宝永年中（1704年ごろ）～享保3年（1718年）	21歳ごろ～35歳	周防徳山藩に仕える
正徳元年（1711年）	28歳	徳山において朝鮮通信使の応接
享保3年（1718年）	35歳	京都に戻る
享保3年（1718年）11月29日	35歳	福山藩儒となる
享保4年（1719年）	36歳	朝鮮通信使を接待
享保5年（1720年）	37歳	福山藩士・佐野理右衛門宗関の女留を娶る
享保6年（1721年）	38歳	長男世廉が生まれる（6歳にて卒）
享保9年（1724年）	41歳	次男輝祖生まれる
享保14年（1729年）	46歳	三男徳祖生まれる
享保14年（1729年）	46歳	藩主のすすめにより藩士の子弟が大いに門下に集り、次第に山崎派より古義学に移行
享保15年（1730年）	47歳	四男保富生まれる（長じて福山藩宮田氏を嗣ぐ

福山藩儒伊藤家歴代家長

代	氏名	号	創家及び家長相続			生年	没年
初代	伊藤重蔵	梅宇	享保3年	（1718年）	36歳	貞享元年（1684年）	延享2年（1745年）
2代	伊藤大佐	霞臺	延享2年	（1745年）	21歳	享保9年（1724年）	宝暦3年（1753年）
3代	伊藤修佐	蘭畹	宝暦3年	（1753年）	26歳	享保12年（1727年）	天明8年（1788年）
4代	伊藤貞蔵	竹坡	天明8年	（1788年）	28歳	宝暦10年（1760年）	文政4年（1821年）
5代	伊藤文佐	蘆汀	文化7年ごろ	（1810年）ごろ	34歳ごろ	安永5年（1776年）	文政4年（1821年）
6代	伊藤健蔵	青藍	文政5年	（1822年）	17歳	文化2年（1805年）	文政11年（1828年）

7代	伊藤格佐	蘆岸	文政11年	(1828年)	23歳	文化2年(1805年)	慶応2年(1866年)
8代	伊藤揚蔵	竹塘	文久2年	(1862年)	26歳	天保7年(1836年)	明治13年(1880年)

生い立ちと学業、業績

字は重蔵・十蔵、名は長敦・長英、号は梅宇・梅宇先生、諡号は康獻(こうけん)先生。
書斎を相遺窩と称した。
貞享元年、古学先生伊藤仁斎の第二子として京都東堀川の勘解小路上る古義堂(仁斎の創立した私塾)に生まれた。
伊藤東涯の異母弟である。

経歴及び業績

宝永年中、周防徳山藩に仕え、正徳元年(1711年)朝鮮通信使が来朝の際は、その応接にあたり、文翰(ぶんかん)として唱酬談論した。
享保3年(1718年)徳山を辞して京都に帰る。

享保3年(1718年)11月29日、阿部正福が取次格三十人扶持で福山に招いて藩儒とし、家学の教授に任じた。
時に36歳、これには兄伊藤東涯の弟子であった福山藩士・後藤新八、及び門岡惣介両氏の斡旋により、安藤大蔵大夫の推挙があったことによる。

翌享保4年(1719年)、徳川吉宗の継職を祝う慶賀使一行(朝鮮通信使)が来朝のとき、鞆津対潮楼で正使・洪致中を接待し、日鮮の交友を深めている。
またその時筆間対策唱酬をなし、『韓客唱酬録』を作成した。

人となりは容貌魁偉、人と接するときは寛大親切で、しかも健啖家であった。
文は韓欧、詩は李杜を愛し、また経史に造詣が深かった。

著書に『著文集(10巻)』、『志林(2巻)』、『談叢(7巻)』、『見聞談叢』、『相遺窩詩稿(3巻)』、『韓客唱酬録』、『梅宇文稿(5巻)』、『講学日記(12巻)』、『案頭雑記』、『康獻先生詩集』、『康獻先生文集』、『庚申口頭吟録』、『梅宇伊藤長英先生遺稿』など多数がある。

延享2年(1745年)10月28日没、享年63歳。
本来儒葬を宗としたが、寺門内では儒葬式の依らないこととして福山西町定福寺に葬る。
碑銘は兄伊藤東涯の門下生・伊勢津藩奥田三角(士亨)の撰。

伊藤家相続

儒家たる伊藤家は、次男の伊藤大佐(霞臺)が嗣いだ。

留夫人

享保5年（1720年）に38歳にして福山藩士・佐野理右衛門宗関の女留を娶る。
夫人は元禄16年（1703年）野州宇都宮に生まれ。
安永5年（1776年）に没す。享年74歳。諡は可貞孺人。福山城北妙政寺の北麓墓地に葬る。

出典1:『伊藤先生喝銘』、奥田士亨撰

出典2:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、74頁、福山市立福山城博物館刊、1996年4月6日

出典3:『郷賢録』、4頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会刊、平成12年10月1日

出典4:『福山藩の文人誌』、36頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会刊、1988年7月27日

出典5:『福山藩の教育と沿革史 藩校から小学校まで』、134頁、清水久人著、阿部正弘公顕彰会刊、1999年8月20日

出典6:『今昔物語 福山の歴史（上巻）』、193頁、村上正名著、歴史図書社刊、昭和53年11月20日

出典7:『福山の今昔』、145頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

出典8:『福山学生会雑誌（第53号）』、附1、「伊藤梅宇先生履歴」、伊藤顧也寄、福山学生会事務所編刊、大正7年7月3日

出典9:『朝鮮通信使の文化的影響と日本人の文雅』、38頁、福山市鞆の浦歴史民俗資料館編刊、2011年10月14日

2005年3月24日更新:本文・出典●2006年2月24日更新:出典●2006年6月15日更新:タイトル●2008年2月12日更新:経歴・本文●2008年2月13日更新:歴代家長●2008年11月13日更新:経歴・本文・出典6●2010年3月18日更新:氏名・本文・出典●2010年3月29日更新:経歴・本文・出典●2011年10月26日更新:本文●